

## 地域づくり表彰

足利・名草ふるさと自然塾運営協議会（栃木県足利市）

人が集まり、元気になる

# 田舎でいい仲！

足利・名草ふるさと  
自然塾運営協議会  
会長

あおき たかお  
青木 孝夫



### 1. 足利市と名草地区の概要

足利市は関東平野の北端、栃木県の南西部に位置しています。市の南側には平野が、北側には日光・足尾から続く山地が広がり、市のほぼ中央を渡良瀬川の清流が流れ、水と緑に恵まれた美しいまちです。



織姫山からみた足利の街並み

足利市は、大正10年（1921年）に市となり、平成23年には市制施行90周年を迎えました。現在の人口は約15万5千人です。

足利といえば、「足利学校」や「足利尊氏」を思い出される方も多いかと思いますが、また、足利は古くは織物のまちとして栄えており、当時、日本一の生産を誇った「足利銘仙」の展示や着物によるまちなか散策イベントなども市内各所で開催しております。

足利市は歴史と文化、そして花にあふれたまちです。ぜひ機会がありましたら足利にお出かけいただき、四季折々の足利をお楽しみください。

### 2. 活動開始の背景・経緯

#### ■足利の過疎地

私たちの活動地区は「名草」と言います。名草は足利市の最北部に位置しており、標高200m～500mの緑豊かな山並に囲まれ、地区の中央を名草川が南に向かって流れております。豊かな自然にあふれており、季節に応じた様々な里山の姿を楽しむことができます。

地区の総人口は、平成24年10月現在で1,967人、世帯数が738世帯です。また15歳未満の年少人口率が約8%、65歳以上の高齢化率が約

33.3%と足利市内において最も少子高齢化が顕著に表れている地区であり、将来への危機感と地域おこしへの期待が高まっていました。

#### ■地域が主役の事業を策定

足利市では、当初、「子どもの森の整備」というかたちで足利市の振興計画に位置づけていました。この計画について、市民の意見を集約し、それを反映することで事業の見直しを図りました。その結果、地域資源を活用した都市住民との交流による地域の活性化を目指すことを基本理念とした「足利・名草ふるさと自然塾事業」として平成17年に策定し、ここに地域との協働による「足利・名草ふるさと自然塾事業」がスタートいたしました。

現在、この自然塾事業は、地域住民を中心とする組織「足利・名草ふるさと自然塾運営協議会」により、市民参加・地域主体で進めることを基本として運営されています。

協議会は、平成17年8月11日に運営協議会準備会として発足し、様々な体験プログラムの試行、地域の整備活動の実践、整備方針の検討などを行い、平成20年5月1日に「足利・名草ふるさと自然塾運営協議会」として正式にスタートしました。

#### ■様々な顔ぶれの協議会

運営協議会は、名草地区での諸活動の中心的存在であるNPO法人名草里山の会をはじめとし、地区観光協会、自治会、地区社会福祉協議会、育成会・小学校PTA、そばや山野草の愛好会等により構成されている組織です。農村地域でありながら、その構成は農家のみならず非農家の方々も多く参加しており、より多方面からの意見やアイデアが事業に盛り込めるメリットにつながります。

また、協議会の中に各部会を設置して業務を分担して進める体制を整えています。

平成20年には、地域の女性を中心

としたサポーターグループ「サルビアの会」も組織され、事業への積極的な協力をいただくなど、活動内容もその幅を広げております。

#### ■自然塾の目指すもの

足利・名草ふるさと自然塾は、名草地区に残る豊かな自然環境や施設、人的・文化的資源などの特性を活かして、「自分でものをつくり、参加し、体験する」ことで自己を発見し、開発する余暇活動の場を提供することを目的に活動しています。



体験活動

また、ターゲットとしては、日帰り体験を中心とした足利市民及び両毛地域住民をまずはメインに、さらに北関東自動車道や鉄道を利用した日帰り体験や、市内宿泊施設を利用し滞在しながら参加する首都圏住民をサブのターゲットとして広く誘客することで、都市住民との交流を図り、地域の活性化を目指しています。



名草ふるさと交流館

平成22年5月、「名草ふるさと交流館」がオープンしました。この交流館は、市内にあった古民家を移築したもので、およそ築150年の建物だったと言われております。現在は、交流・活動の拠点として活用しています。名草地区の里山の雰囲気マ

ッチしており、事業の推進にも一役買っているものと思われます。

運営協議会はその管理運営を足利市から受託し、責任をもって運営に取り組み、活動の中心施設として、より活発な活用が図られるよう事業を展開しています。

### 3. 事業の内容・実施状況

#### ■体験プログラム

前述のとおり、足利・名草ふるさと自然塾では「自分でものをつくり、参加し、体験する」事業を実施し、都市住民との交流と、地域の活性化に向けて取り組んでいます。そのアプローチとして、親子で参加する各種プログラムを設定し、自然塾会員が“先生”となって実施しています。

#### ■田んぼの学校！

まず、田んぼの学校！をご紹介します。田んぼの学校は、6月に田植え、7月に田んぼの生きもの観察会、10月に稲刈りといった稲作体験のプログラムです。苗からお米になっていく過程を、子どもたちは自身での作業を通して体験していくことで、食の大切さ、いのちの大切さ、環境の大切さを学んでいきます。また、作業の後にはカレーライスやおむすびを提供し、参加者全員で食事をすることで“みんなで過ごす楽しさ”を感じていただきます。



田んぼの学校！：田植え体験

また「加工編」と題して、地域で行われているしめ縄作りと、杵と臼を使った昔ながらの餅つきを体験し、民俗文化の継承の一助となるよう実施をしております。

#### ■大豆も、そばも、炭焼きも

「大豆の力を学ぼう！」は大豆の栽培と加工の体験プログラムです。

7月に種まき、8月に草とり、11月に収穫して、翌1月に収穫された大豆を使って味噌作りを行います。

また「そばをみんなで育てよう！」

というプログラムでは、8月にそばの種まき、10月に収穫、12月に新そばを使って、地域の“名人”によるそば打ち体験を行います。

「里山の伝統 炭焼き体験！」は、昔ながらの土窯を使った炭焼きを体験するものです。1回目に原木を窯に詰める窯入れを行い、2週間後に2回目として炭を窯から出す窯出しをします。隣接するピザ焼き窯に火を入れ、炭と薪で作ったピザを焼いて食べるお楽しみもあります。

その他、原木しいたけの植菌体験、クワガタの飼育体験なども人気のプログラムとなっています。

#### ■フラワーフェスティバル

また、そのほかに、地域と都市の交流をより広く図るため、イベントを開催しております。その一つが「名草で学ぼう！名草で遊ぼう！フラワーフェスティバル」です。



フラワーフェスティバル

今年9月には10回目の開催となったこのイベントでは、名草の豊かな自然を用いた様々な体験、学習、交流を行います。イワナのつかみ取りやピザ焼き体験、竹とんぼや水鉄砲作り、また名物焼きそばやかき氷、流しソーメンの提供により、食と地域の交流を促進しております。

年々来場者、そして協力者も増加し、地域のイベントとして定着しております。



力士ふれあいフェスタ：取組体験

そのほか、春には「スプリングフェスタ」、夏には陸奥部屋の協力により「力士ふれあいフェスタ」を開催し、一年を通じた多彩な事業を行っ

ております。

### 4. 新たな取組みに向けて

平成24年度、足利・名草ふるさと自然塾では、大学生モニターの参加、モデルツアーの実施を通して事業の検証を行っております。

また、都市及び農村の体験を組み入れた教育旅行として、今年9月に陸前高田市小学校の修学旅行の受入れを行いました。今後その受入体制を強化し、農家民泊も含めた取組みにつなげていきたいと思っております。



修学旅行の受入：里山体験

### 5. 課題と展望

今後、足利・名草ふるさと自然塾事業としては、名草地区全体の充実と地域活性化、市全体との連携につなげていくことを目標としています。

そのためには、体験プログラムの一層の充実、サテライト地区の環境整備とネットワークの強化、もてなしの心の醸成といったことを通じて、名草地区への来訪者が一日ゆっくり楽しめ、気軽に何度も来たいくなるような地域づくりが求められています。

また、課題としては、新規参加者及びリピーターの獲得に向けた事業内容の改善のほか、運営する側の高齢化も挙げられます。若い世代の協力者が徐々に現れてきていますが、今後は、地区外からも広く会員を募るなど体制の強化が必要です。

名草ふるさと自然塾事業としては、当面は行政との協働のまちづくりを進めながら、将来的には経済的にも自立できる体制を整えたいと思っております。目標を掲げ、人的にも、経済的にも多くの人・団体との“いい仲”を築いてまいります。

まだまだ地域には埋もれた地域資源があり、この地域資源を最大限に活用し、都市農村交流人口の増加を図り、地域住民がいきいきと誇りの持てる名草(まち)にして参ります。